

PTSD 構造化面接 CAPSを理解する

本研修ではPTSD診断の際に必要な心構え、尺度、面接法について学びます。特に、臨床、研究、そして司法など、さまざまな場面で確定診断を付ける上で、重要な技法である構造化面接法を習得する機会になります。

今回取り上げる、CAPS(Clinician-Administered PTSD Scale)は、米国国立PTSDセンターで開発され、現在もっとも精度の高いPTSD診断用構造化面接尺度として広く知られています。

国際的にもこれまで各国で数多くの臨床研究、薬剤治験等で使用されてきました。日本語版も標準化されており、使用頻度の高い面接法です。また最近、二つの抗うつ剤に、PTSDの適応が追加されたことから、臨床場面での重要性は高まると思われれます。

なお、CAPSは平成18年4月から、保険適用（450点）となっています。

今回の研修では、評価方法の概要を理解した上で、現段階の最新版であるCAPS-5について、旧版からの変更点、実際の評価方法について動画を使ったデモンストラーション、および参加者同士でのロールプレイによるシミュレーションを行います。

日時

令和3年2月6日（土）

13:00～17:00

実施方法

オンライン開催（Zoomを予定）

定員

30名【先着順】

受講料

10,000円

講師

加藤 寛

（兵庫県こころのケアセンター長）

主催

兵庫県こころのケアセンター

兵庫県神戸市中央区
脇浜海岸通 1-3-2

後援(予定)

日本トラウマティック・ストレス学会



公益財団法人 21世紀文明の創造をめざして
ひょうご震災記念21世紀研究機構
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Institute